

## 新百合ヶ丘の誕生

現在の「新百合ヶ丘駅」付近は、かつては「百合ヶ丘」の造成地に隣接する丘陵地で約 65%が山林という土地であった。「小田急電鉄」の「多摩ニュータウン」への新線建設を機に「新百合ヶ丘駅」が建設され、1974(昭和 49)年に開業したが、

土地区画整理事業が進むまで、駅の周辺にはクヌギやコナラの雑木林が広がっていた。

### 小田急線の付け替え



1967(昭和 42)年と 1978(昭和 53)年の地形図を見比べると、後の「新百合ヶ丘駅」付近は、かつては「百合ヶ丘」の造成地に隣接する丘陵地で、1967(昭和 42)年の地形図①付近のように小田急線は S 字のカーブで丘陵地を避ける、「津久井道」に概ね並行したルートであった。



1968(昭和 43)年、「小田急電鉄」は東京都などが開発を進めていた「多摩ニュータウン」へのアクセス路線(現・多摩線)と、その分岐駅となる新駅を百合ヶ丘・柿生間に作る計画を発表。1970(昭和 45)年に着工、多摩線と丘陵地を貫く直線的な小田原線の新線、分岐駅となる新駅「新百合ヶ丘駅」が建設され、1974(昭和 49)年 6 月に開通・開業した。



写真は、旧線が新線に切り替わる直前の1974(昭和49)年5月の撮影。場所は旧線の「百合ヶ丘2号踏切」で、上地形図の①付近。【画像は1974(昭和49)年】



同地点付近の現在の様子。バス停の先の交差点がかつての踏切付近。写真には写っていないが、交差点から左方向に延びる歩行者専用道路が線路跡となる。この交差点の先に「新百合ヶ丘駅」北口のロータリーがある。

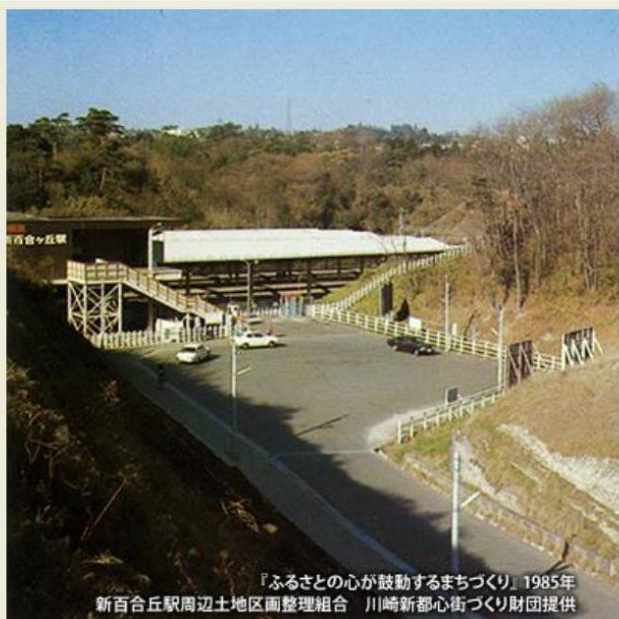


「新百合ヶ丘駅」が開業する2週間ほど前の様子。小田急線の下り線(右側)は新線に切り替わっているが、上り線(左側)は旧線のままという珍しい写真。下ってくるのは、「NSE」の特急ロマンスカー「あしがら」号。多摩線の高架橋も見える。撮影場所は上地形図の②付近。【画像は1974(昭和49)年】



同地点付近の現在の様子。このあたりの旧線の跡は、保線用の用地として使用されている。写真の特急ロマンスカーは2018(平成30)年に登場した「GSE」。

## 「新百合ヶ丘駅」の開業



「新百合ヶ丘駅」は1974(昭和49)年に開業した。写真は1977(昭和52)年、現在の南口側の駅前。開業より3年経過しているが、駅前にはまだ建物は見られず、周辺はクスギやコナラの雑木林が広がっていた。この年から駅周辺の土地画整理事業が始まっている。【画像は1977(昭和52)年】





写真は 1978(昭和 53)年撮影の「新百合ヶ丘駅」。駅の北側(写真右奥)で造成工事が始まっている。

【画像は 1978(昭和 53)年】



現在の「新百合ヶ丘駅」。写真のように急行・各駅停車などの待ち合わせが行われることも多い。写真右奥の駐車場のあるビルは 1997(平成 9)年開業の「小田急アコルデ新百合ヶ丘北館」。

### 新百合ヶ丘駅周辺の開発状況:年表

1973(S48)	川崎市が現新百合ヶ丘駅付近を中心とする北部副都心構想を発表した。	1992(H04)	新百合ヶ丘エルミロードが開業。
1974(S49)	小田急多摩線が開通し、新百合ヶ丘駅・五月台駅・栗平駅・黒川駅が開設。	1994(H06)	セゾングループが出店を断念。
1977(S52)	「新百合ヶ丘駅周辺土地区画整理組合」が設立、土地区画整理が開始し、1984(S59)年度に完了した。	1995(H07)	黒川で、かわさきマイコンシティの企業誘致が始まる。
1982(S57)	多摩区のうち旧柿生村・旧岡上村の全域、および旧生田村の一部が区分し麻生区が誕生する。	1997(H09)	新百合ヶ丘ビブレ開業。6階にシネマコンプレックス。
1986(S61)	バス乗り場が整備された。	2000(H12)	駅北に「万福寺土地区画整理組合」が設立。2008(H26)に完了。
1990(H02)	小田急アコルデ新百合ヶ丘が開業。	～	オーパビル・リそな銀行ビル・WTC 新百合ヶ丘ビル・コナミスポーツビルなどが開業し、川崎市の副都心として発展した。
1991(H03)	川崎市が新百合ヶ丘地域を対象に「芸術のまち」構想を発表する。	2002(H14)	昭和音楽大学が移転。
1992(H04)	「新百合ヶ丘マブレ」が駅南口から延びる歩行者道沿いに開業。	2007(H19)	アートセンター開業。